

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101052
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホームジェントルハートみつ
所在地	愛媛県松山市梅田町4番35号
自己評価作成日	平成 28 年 5 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 6 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知度の高低差が個人的にあるので、一人ひとりに合わせた介護対応をしている。ゆっくりと話をし、意思の確認をし、時間の許す限り、寄り添ってご利用者が満足していただけるように職員一同、こころがけている。ご家族様の意向やご意見も参考にして、おやつの嗜好や行動の制限を考えながら、提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三津浜の穏やかな海を眺める事業所は、小規模特別養護老人ホーム・ショートステイ・グループホーム・デイサービスセンターで構成する高齢者福祉施設に所在する。リハビリ機器を備えた1階多目的ホールは、音楽療法や催し物の場として活用されるほか、地域住民に開放され交流スペースとして利用することができる。落ち着いた和の雰囲気ですえた建物内部や広々とした共用部、テラスやサンルームと心が癒されるこだわりの空間づくりとなっている。法人をあげて専門性を活かした地域貢献に取り組み、緊急時の福祉避難所としての指定、近隣小学校との継続的な交流など積極的に活動している。今年度より2ユニット各管理者の交代があり、気持ちを新たにスタートを切った。利用者一人ひとりの「その人らしさ」を大切に、思いに沿った個別ケアを実施している。職員は、認知症ケアを深めるべく、温かな気持ちを持って利用者の生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームジェントルハートみつ

(ユニット名) 琴音

記入者(管理者)
氏名 大通 佳子

評価完了日 平成 28 年 5 月 26 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念とは別にグループホームの理念・目標を全職員と一緒に考え、それぞれのユニットに掲示し、日々、共有と確認ができるようにし、それが実践できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 法人理念に加え、開設時に職員で話し合っ作成した事業所理念「ご利用者様の尊厳を大切に、個別支援に努める」を掲げている。事業所理念を踏まえ各ユニット毎の目標を作成し、「その人らしさ」を大切にケアに努めている。入職時は法人共通の新人教育期間を設け、配置後に管理者から事業所理念の説明がある。新人期間は先輩職員が指導や相談にあたるプリセプター制度を導入し、よき理解者であり共に成長する機会として活用されている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の小学校との交流会や、花火大会、運動会などの行事を通じて、地域の方との交流を図り、施設に子供達を招いたり、ボランティアの方を受け入れるなど、オープンな施設になるように努めている。秋祭りには、地区の神輿を入れるなど、地域の方との交流も積極的に行っている。</p> <p>(外部評価) 開設時より近隣小学校長や福祉担当職員、ボランティア部、地域の民生委員からの厚い支援があった。近隣小学校とは相互に行き来する馴染みの関係が構築され、定期的に交流している。現在は三津浜地区まちづくり協議会からの働きかけを受け、秋祭りの神輿入れなど地域交流が深まっている。事業所としてできる地域貢献に力を入れており、事業所のある高齢者福祉施設は地域の福祉避難所としての指定を受けている。また、1階ホールを地域住民へ開放し気軽に利用してもらっている。今後は認知症カフェの開催に向け準備を進めており、積極的な地域交流への姿勢が見られる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域貢献は、当法人の理念でもあり、地域や学校の運動会などの見学に行き、地域の方との交流を深め、認知症への理解につながるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者状況や行事の実施や、予定につ いて報告をしている。地域の代表の方から、防災訓練や地域 のイベントなどの予定もお聞きし、利用者様や職員も参加で きるように取り組んでいる。	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 小規模特別養護老人ホームと合同で開催され、利用者や家 族、地域住民、市担当者や地域包括支援センター職員等の参 加を得て開催している。会議の内容は事業所での運営状況報 告のほか、地域情報交換、防災訓練等幅広い話し合いができて いる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 日頃の業務における疑問点などは、松山市にその都度確認 するなどしている。地域包括支援センターとは、空き情報の 連絡や、三津浜地区のグループホーム連絡会への参加によ り、情報交換を行っている。	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 日頃から質問や相談など、その都度市担当者に連絡を取り、 アドバイスをもらう気軽な関係にある。地域包括支援セン ターとも定期的に連絡を取り合う良好な協力関係が構築でき ている。両者の運営推進会議への参加を得て、運営に関する 実情を理解してもらっている。三津浜地区グループホーム連 絡会を通じ、近隣グループホームの意見交換や関係づくりが できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する研修に積極的に参加し、身体拘束への意 識を高めるように取り組んでいる。さらに、「不適切ケア」 チェックシートを活用し、個々の職員が日頃のケアを振り返 り、身体拘束につながるような言動がないように努めてい る。	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 身体拘束をしないケアが根付いている。事業所内外での勉強 会の機会を活用し、正しい理解が深まるように努めているほ か、法人独自の『不適切ケア』チェックシートの活用によ り、職員一人ひとりが日常のケアの中で利用者尊厳意識を もった取組みができている。また、慣れの中で尊厳が無視さ れないよう、声かけに配慮したケアにも取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修に参加し、どのようなときに虐待が起きるのかを学び、虐待防止に取り組んでいる。虐待につながる不適切ケアについて3ヶ月に一度チェックし、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について、学ぶ機会を持ち、知識の習得に努めている。さらに、ご利用者様の権利擁護についての知識を深めるように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用申込や契約時に出来るだけ丁寧な説明を行い、その上で、ご利用者、ご家族からの疑問や質問を伺い細かく説明し、納得してご契約いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、匿名でご意見を頂けるようにしている。また、面会時や電話での連絡の時に、日頃の様子を説明し、ご意見やご要望を伺っている。	
			(外部評価) 入居時には重要事項説明書により、事業所内外の意見受付先について説明している。意見箱を設置し、面会時や電話連絡、お便りの機会等活用して思いが表せるように配慮している。苦情等の意見対応について関する流れを明確にすることにより、早急に解決、運営に反映できる仕組みがある。過去に運営に関するグループホーム独自の家族アンケートを実施し、業務改善につなげたケースもあり、ケアサービスの質の向上に向けて貪欲に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度フロアー会やサービス向上委員会を開き、提案などを開く機会を持つようにしている。職員の意見は、次月の活動や、今後の運営に反映させるようにしている。 (外部評価) 職員同士のこれまでの経験は様々であるが、個々を尊敬し合う気持ちを持って良好な関係が構築されており、ユニット合同で毎月フロアー会を開催し、日頃の課題等に関する話合いや、気軽な意見交換の機会としている。両ユニットにシフトを共にする管理者が存在するため、日常的に思いを話し合い、相談できている。また、年2回の職員面談では施設長と直接話し合う機会を確保しているほか、職員は法人内の各種委員会等へ参加するなど活動を通じ向上心を育んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回、職員個々の努力、実績を評価し給与などの賃金アップなど、努力が反映される環境や条件が整い、やりがいを持って仕事が出来ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間活動計画の中に、内部・外部の研修の予定を入れ、職員が研修を受ける機会を確保し、技術や意識の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が、地域のグループホームとの交流会に参加し、意見交換を行いネットワーク作りに努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に面談を行いご利用者様の困っていることや要望を出るだけ細かく聞きだせるように努めている。入所後は、細やかな声かけや、他の入居者との関係作りに関わることで、ホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 申込時や面談の時にご家族が何に対し、どのように困って入所に至ったか、ホームでどういう支援を臨んでいるのかに耳を傾け、それに応える努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今まで利用されていたサービスを入所する事で切ってしまうわず引き続き利用できるような柔軟な対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者様の能力に応じ、掃除や、食器の片付け、洗濯物の片付けなどを職員と一緒にしていく事で、共に生活している関係を作るように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者様の必要な物品などの買い物をご家族にお願いし、面会の機会を作るようにしている。入所後も、以前から関係のある地域との交流に参加できるようにご家族にも協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 施設ではグループホームの方だけではなく、1Fのリハビリで特養の利用者様と会話したり、特養の方へ会いにお連れするなど、利用者様同士がふれ合い、楽しく過ごせる場をつくるように支援している。 (外部評価) 入居前の面談や日々の生活の中で、利用者が大切にしていきたいことや、とりまく背景について詳細に把握し、職員間で共有することができている。入居前の近所付き合いや家族等との関係が良好に継続できるよう支援している。事業所での生活が始まって馴染みのホームヘルパーの活用ができるようプランにつなげたりと、利用者の思いが実現できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士で、リビングのソファで話をされたり、一緒に散歩されたりして関わり合いをもたれている。また、ご利用者様が1人では、側にて声かけをしたり、他の方とのふれ合いができるよう、支援をおなっている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人の状態に応じ、特養への移行を支援したり、入院の場合は、見舞いに行くなど、関係を断ち切らないように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から、ご本人やご家族の意向を伺っている。ご本人の意向が把握できない時や、ご家族から特に要望が無い場合は、職員間で、どうするのが最も良いか検討し対応している。 (外部評価) 認知症状の進行により、これまで好きだったことなどに興味を失っていく利用者の一日一日を大切に思っている。声かけや会話を継続させ、会話の中から要望や思いを引き出し、家族等や職員間で思いを共有し、実現できるよう支援している。意志表示が困難になっても、これまでの暮らしぶりの記録や家族等関係者からの情報をもとに本人本位に検討し、外出や音楽療法の機会を活用して気分転換を図りながら、豊かな生活支援へつながるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談などにより、これまでの生きてこられた過程や、職業などの生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り、記録等で本人の1日の過ごし方や、心身の状態の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族から、今まで困っていた事や要望などを伺うと共に、職員や、家族以外で関わっていた方からの情報も参考にして介護計画を立てている。	
			(外部評価) 生活の中で把握した利用者の意向や家族等の思いをプランに取り入れて実践につなげている。サービス担当者会議で担当者や介護支援専門員、管理者、担当職員で利用者がより良く暮らすための課題について検討し、意見を出し合っって介護計画を作成している。介護計画は3か月毎に見直され、担当者が毎月モニタリングを実施している。記録物に関し、明確な記載に努め、利用者の日々の変化が誰が見てもわかるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、心身の状態、行動を24Hシートに記録し、情報の共有、ケアプランの反映に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) グループホームだけでなく、併設の特養とも連携し、一緒に行事を行ったり、分かれて入所している家族への面会などを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域にある小学校との交流や、消防署との避難訓練への参加を通じ、地域との交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族に入所前に医療についての要望を聞き、そ れに沿って対応している。以前より関わりのあった医療機関 にも継続して受診できるように支援している。	
			(外部評価) 利用者のほとんどが協力医療機関をかかりつけ医としてお り、月2回の往診のほか、状況に応じて適切な医療が受けら れるよう支援している。希望する馴染みの医療機関への受診 は、家族の協力を得たり職員の同行で行っており、受診時の 情報提供が円滑にできている。法人内看護師とは24時間医 療体制が敷かれ、緊急時や日常の相談等が気軽に行為れてお り安心感が持てる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームには特養と兼務する看護師がおり、健康面での相談 や、医療機関との間に入ってもらい、適切な医療、看護が受 けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院されたケースでは、入院時の医師からの説明を看護師 と管理者が家族と共に聞き、入院後、家族様から状況を伺い ながら様子を見て、退院・再入所の準備を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルの方には、早い段階から、ターミナルケアの方 針に沿って、家族との週1回のカンファレンスや、ターミナ ルケアプランの作成・実施、ターミナルケア記録による個別 の状況把握、医療機関との連携に取り組み、万ーの場合の対 応も決めている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を定め、看取り経験もある。法人内部研 修にて勉強の機会を設け、職員のスキルを高めている。点滴 等医療面での処置が必要な状況を含めた不安軽減として、緊 急時連絡体制、法人内看護師との24時間医療体制、経験度 に応じた夜勤体制等対応を行っている。また、利用者の状況 に応じて説明の機会を設け方針を共有するなど、チームで支 援に取り組むことができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故や急変時の対応マニュアルがあり、緊急時に適切な対応が出来るよう、確認している。全ての職員は定期的に訓練を行い、慌てず適切な対応が出来るように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の指導による避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるように努めている。防災訓練への参加や運営推進会議等の場を通じ、地域の方との連携を図っている。 (外部評価) 年2回、消防署立ち合いにて訓練を実施し、専門的な視点からアドバイスを受けている。事業所の所在する高齢者福祉施設は福祉避難所となっており、緊急時の備蓄品は施設全体プラス地域分を合わせて設定している。防火扉や避難スロープ等、施設全体の設備面は安心感がある。事業所は海岸に近いが、地震時の津波対応だけでなく各災害を想定した安全な避難方法を検討することができている。	訓練の方法や避難経路での改善案など、消防署から受けたアドバイスを確実に役立てて欲しい。運営推進会議や地域防災訓練等、地域住民の防災意識も高い地域であるので、訓練への参加協力を得たい。高まる全国での災害不安に対し、緊急時に福祉避難所としてスムーズに機能できるよう地域との具体的な協力体制づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) グループホームの理念に「尊厳を大切にすること」が掲げられている。言葉遣いについても、不適切ケアチェックシートや自己評価チェックシートを記入し自らを振り返り、誇りやプライバシーを損ねないように取り組んでいる。 (外部評価) 利用者の尊厳を大切にすることは理念にも掲げられ、事業所全体で共有できている。定期的に不適切ケアチェックシートを用いた自己評価を実施することで、日々のケアに活かされる仕組みがある。また、排泄や入浴時の特に羞恥心に配慮が必要となる場面では、特に声かけの面で誇りやプライバシーを損ねないことを意識した取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 朝食の飲み物を希望のものにしたり、10時と15時の水分補給時には本人に聞いて、好みのものをお出ししている。希望を聞く時も、「何が良いですか」と、出来るだけ本人の希望を尊重出来るような、言葉がけをするようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各ユニットの目標に「自分らしく」や「その人らしさ」を掲げている。入浴や食事の時間など、出来るだけ利用者様のペースで生活できるよう、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時には、居室にてご自分の持たれている、化粧品でお化粧をして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事はご飯を各ユニットで炊き、副菜は厨房から上がってきている。盛り付けは各ユニットで行っている。カレー作りやおやつ作りでは、それぞれの利用者様の能力を生かして参加して頂いている。	
			(外部評価) 高齢者福祉施設全体の献立は法人管理栄養士が作成し、厨房で調理されているが、主食の準備や配膳等は各ユニットで行っている。好みのメニュー等について管理栄養士が調査しており、栄養管理とともに食が楽しみにつながるよう努めている。懐かしいおはぎ等おやつ作りを定期的に行うなど、懐かしい和みのひと時を楽しんでおり、利用者それぞれの希望に沿った時間の過ごし方ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分摂取量をチェックして毎日一人ひとり記録し確認をしている。またその方のペースに応じた支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、きちんと一人ひとりの状態や本人の力に応じて歯磨きをしたり、うがい、入れ歯の洗浄など口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の訴えや、様子観察を通じ、適切にトイレ誘導や失禁を減らすように努めている。立位や座位保持が出来る方には、トイレでの排泄を促し、安易にオムツを使用しないようにし自立に向けた支援を心がけている。	
			(外部評価) 利用者の様子をよく観察したり、排泄パターンを把握するほか、声かけによる誘導等工夫しトイレでの排泄に努めている。利用者の残存能力や機能回復等を考慮し、過度の介助による症状の進行を防止している。また、何より日々の生活の中で食事や運動等、基本的な面から健康管理していくことを大切にしており、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘ぎみの方には、廊下を歩いたり、散歩をするなどの運動や、しっかりと水分摂取して頂き、できるだけ自然排便を促し、どうしても出ないときには便秘薬を用いるようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個浴、機械浴とも週2回入浴していただくようにし、体調が悪い時や本人様が入られない時には別の日に声掛けしたりしながら、臨機応変に対応しており、気持ちよく入浴ができるよう支援している。	
			(外部評価) 週2回の入浴が基本となっており、各ユニットの浴室には可動式の個別浴槽や特殊浴槽があり、利用者の状態に合わせて利用することができる。また、入浴が苦手な利用者にも、声かけの工夫や日時を変更するなど柔軟な対応をしており、無理強いすることなく利用者が入浴を楽しめており、清潔保持のための支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の様子を見ながら、休息をとって頂いたり、体調に合わせた生活のリズムを考え対応している。1日中起こしっぱなしや寝かせっぱなしにならないよう、ご本人の様子を見ながら、臥床して頂くように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤除法提供表などをおき、確認できるようにしている。重要な薬に関しては、副作用について確認し、場合によっては、看護師に確認して飲んで頂き、状態変化の観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の性格や出来る事を把握し、人との関わりや、家事での役割を持っていただき、気分転換や達成感のある生活を送って頂く。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外部のサービス（ヘルパー）を利用したり、ご家族の支援を得て外出をしていただいたり、少人数ずつ施設のまわりを散歩したり、公園や神社に散歩やお花見にお連れしている。また、月に1回はドライブに行き、外の空気に触れ、気分転換を図るように、支援している。	
			(外部評価) 定期的に季節の景色や行事が楽しめるよう工夫しており、事業所周辺へ出かけることは日常で、その日の希望に沿って戸外へ出かけることができている。また、事業所内にいながら気分転換ができるよう、職員が手入れしている中庭やサンルーム、リハビリ機器が揃う多目的ホールの活用ができるほか、利用者の希望を把握し、家族等の協力を得て外出できるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者様や家族様の了解の下、ご自身でもてる方には、お金を所持して頂いている。外出時は各自お金を持ち歩き買い物をして頂き、施設内の自動販売機などで、ジュースを買っていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族と話がしたいと言われるときには、出来るだけご家族に連絡し話をしている。また、手紙のやりとりも、自由にして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日清掃を行い、居心地のよい共同空間づくりに努めている。照明の明るさを変えたり、窓を開けるなどして、換気をしたり外の景色をみて季節感を感じて頂く様にしている。ボードや壁の装飾を毎月替えることにより、季節を実感して頂く工夫も行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者にとって落ち着ける空間であるよう和調の雰囲気を取り入れた設えで、共用部は広くとってありゆとりがある。また、空調や調光に配慮し、不快な臭気もなく心地良い空間づくりとなっている。キッチンからリビングの死角となる場所にはミラーを活用し、共用部分に不要な物を置かず安全面に配慮しているほか、職員の毎日2回の徹底した清掃により清潔な共用空間を維持している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 海に見える部屋やサンルームでゆったりと過ごして頂いたり、ソファにて他のご利用者様と話をしながら過ごして頂いたり、個人の意思を尊重して自由に過ごして頂いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に写真を飾ったり、アルバムを置くなどして、ご自分の部屋のように居心地よく過ごせるようにしている。馴染みの家具やソファ、冷蔵庫、机を置くなどして本人が過ごしやすい雰囲気作りや自宅で過ごしているような工夫も行っている。</p> <p>(外部評価) 個別の空間は広々としており、靴箱、洗面台、仕切りカーテン、クローゼット、エアコンや電動ベッドなどが備え付けられている。また、これまでの習慣を維持できるよう使い慣れたものの持ち込みを声かけしており、豊調の敷物や家具等を自由に持ちこんで居室に近い状況を再現するなど、居心地よい空間になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、浴室、トイレ、洗面台には手すりをつけ、出来る事は自分で出来るように工夫をし、自立した生活が送れるよう、支援している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101052
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホームジェントルハートみつ
所在地	愛媛県松山市梅田町4番35号
自己評価作成日	平成28年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 6 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とのコミュニケーションをしっかりとるように努めている。ご家族様と利用者様とのつながりを大事にし、出来るだけ、ご家族様と利用者様との交流が出来るように努力している。毎月のご利用者様の様子や、ケアプランの実施状況について、文書化してご家族に送付し、日々の生活について理解して頂けるように努めている。季節の行事等を感じさせるポップや部屋の飾りつけをして、四季の移り変わりを感じていただき、視覚を刺激して頂くようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三津浜の穏やかな海を眺める事業所は、小規模特別養護老人ホーム・ショートステイ・グループホーム・デイサービスセンターで構成する高齢者福祉施設に所在する。リハビリ機器を備えた1階多目的ホールは、音楽療法や催し物の場として活用されるほか、地域住民に開放され交流スペースとして利用することができる。落ち着いた和の雰囲気です設えた建物内部や広々とした共用部、テラスやサンルームと心が癒されるこだわりの空間づくりとなっている。法人をあげて専門性を活かした地域貢献に取り組み、緊急時の福祉避難所としての指定、近隣小学校との継続的な交流など積極的に活動している。今年度より2ユニット各管理者の交代があり、気持ちを新たにスタートを切った。利用者一人ひとりの「その人らしさ」を大切に、思いに沿った個別ケアを実施している。職員は、認知症ケアを深めるべく、温かな気持ちを持って利用者の生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームジェントルハートみつ

(ユニット名) 鈴音

記入者(管理者)

氏名 吉田 憲弘

評価完了日

平成 28 年 5 月 26 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の理念とは別にグループホームの理念・目標を全職員と一緒に考え、それぞれのユニットに掲示し、日々、共有と確認ができるようにし、それが実践できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 法人理念に加え、開設時に職員で話し合っ作成した事業所理念「ご利用者様の尊厳を大切に、個別支援に努める」を掲げている。事業所理念を踏まえ各ユニット毎の目標を作成し、「その人らしさ」を大切にケアに努めている。入職時は法人共通の新人教育期間を設け、配置後に管理者から事業所理念の説明がある。新人期間は先輩職員が指導や相談にあたるプリセプター制度を導入し、よき理解者であり共に成長する機会として活用されている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の小学校との交流会や、花火大会、運動会などの行事を通じて、地域の方との交流を図り、施設に子供達を招いたり、ボランティアの方を受け入れるなど、オープンな施設になるように努めている。秋祭りには、神輿を入れるなど、地域との方との交流も大切にしている。</p> <p>(外部評価) 開設時より近隣小学校長や福祉担当職員、ボランティア部、地域の民生委員からの厚い支援があった。近隣小学校とは相互に行き来する馴染みの関係が構築され、定期的に交流している。現在は三津浜地区まちづくり協議会からの働きかけを受け、秋祭りの神輿入れなど地域交流が深まっている。事業所としてできる地域貢献に力を入れており、事業所のある高齢者福祉施設は地域の福祉避難所としての指定を受けている。また、1階ホールを地域住民へ開放し気軽に利用してもらっている。今後は認知症カフェの開催に向け準備を進めており、積極的な地域交流への姿勢が見られる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域貢献は、当法人の理念でもあり、地域や学校の運動会にも見学に行き地域の方との交流を深め、認知症への理解につながるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者状況や行事の実施や、予定について報告し、地域の代表の方の意見をお聞きし、イベントや防災訓練にもできるだけ参加するようにしている。避難訓練では、消防署に来て頂き、指導や改善点を把握し、現実的な訓練が出来るように努めている。	推進会議開催のお知らせは広く告知することができているが、参加者が限られている現状にある。サービス向上につながる取組みとして、グループホーム独自の魅力ある会議開催にチャレンジして欲しい。新たな参加メンバーが獲得できることで、互いに有益な情報交換の場として活用できることに期待したい。
			(外部評価) 小規模特別養護老人ホームと合同で開催され、利用者や家族、地域住民、市担当者や地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議の内容は事業所での運営状況報告のほか、地域情報交換、防災訓練等幅広い話し合いができています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃の業務に置ける疑問点などは、松山市にその都度確認するなどしている。地域包括センターとは、空き情報の連絡や、三津浜地区のグループホーム連絡会への参加により、情報交換を行っている。	
			(外部評価) 日頃から質問や相談など、その都度市担当者に連絡を取り、アドバイスをもらう気軽な関係にある。地域包括支援センターとも定期的に連絡を取り合う良好な協力関係が構築できている。両者の運営推進会議への参加を得て、運営に関する実情を理解してもらっている。三津浜地区グループホーム連絡会を通じ、近隣グループホームの意見交換や関係づくりができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する研修に積極的に参加し、身体拘束への意識を高めるように取り組んでいる。さらに、「不適切ケア」チェックシートを活用し、個々の職員が日頃のケアを振り返り、身体拘束につながるような言動がないように努めている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアが根付いている。事業所内外での勉強会の機会を活用し、正しい理解が深まるように努めているほか、法人独自の『不適切ケア』チェックシートの活用により、職員一人ひとりが日常のケアの中で利用者尊厳意識をもった取組みができています。また、慣れの中で尊厳が無視されないよう、声かけに配慮したケアにも取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修に参加し、どのようなときに虐待が起きるのかを学び、虐待防止に取り組んでいる。虐待につながる不適切ケアについて3ヶ月に一度チェックし、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について、学ぶ機会を持ち、知識の習得に努めている。さらに、ご利用者様の権利擁護についての知識を深めるように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用申込や契約時に出来るだけ丁寧な説明を行い、その上で、ご利用者、ご家族からの疑問や質問を伺い細かく説明し、納得してご契約頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、匿名でご意見を頂けるようにしている。また、面会時や電話での連絡の時に、日頃の様子を説明し、ご意見やご要望を伺っている。 (外部評価) 入居時には重要事項説明書により、事業所内外の意見受付先について説明している。意見箱を設置し、面会時や電話連絡、お便りの機会等活用して思いが表せるように配慮している。苦情等の意見対応について関する流れを明確にすることにより、早急に解決、運営に反映できる仕組みがある。過去に運営に関するグループホーム独自の家族アンケートを実施し、業務改善につなげたケースもあり、ケアサービスの質の向上に向けて貪欲に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度フロアー会をやサービス向上委員会を開き、提案などを開く機会を持つようにしている。職員の意見は、次月の活動や、今後の運営に反映させるようにしている。 (外部評価) 職員同士のこれまでの経験は様々であるが、個々を尊敬し合う気持ちを持って良好な関係が構築されており、ユニット合同で毎月フロアー会を開催し、日頃の課題等に関する話合いや、気軽な意見交換の機会としている。両ユニットにシフトを共にする管理者が存在するため、日常的に思いを話し合い、相談できている。また、年2回の職員面談では施設長と直接話し合う機会を確保しているほか、職員は法人内の各種委員会等へ参加するなど活動を通じ向上心を育んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回、職員個々の努力、実績を評価し給与などの賃金アップなど、努力が反映される環境や条件が整い、やりがいを持って仕事が出来ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間活動計画の中に、内部・外部の研修の予定を入れ、職員が研修を受ける機会を確保し、技術や意識に向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が、地域のグループホームとの交流会に参加し、意見交換を行いネットワーク作りに努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に面談を行いご利用者様の困っていることや、要望を出来るだけ細かく聞き出せるように努めている。入所後は、細やかな声かけや、他の入居者との関係づくりに、関わることで、ホームでの生活がスムーズに出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 申込時や面談の時にご家族が何に対し、どのように困って入所に至ったか、ホームでどういう支援を臨んでいるのかに耳を傾け、それに応える努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今まで利用されていたサービスを入所することに、切ってしまうと引き続き利用できるような柔軟な対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者様の能力に応じて、掃除や、食器の片付け、洗濯物をたたんで頂くなど、職員と一緒にしていくことで、共に生活している関係や役割を作れるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者様の必要な物品などの買い物をご家族にお願いし、面会の機会を作るようにしている。入所後も、以前から関係のある地域との交流に参加できるようにご家族にも協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前から交流のあった人が、面会に来られる機会をつくったり、併設している特養の方と1Fでリハビリをしながら、話されたり、他の階に、散歩や遊びにお連れし、会話を増やすような支援をしている。 (外部評価) 入居前の面談や日々の生活の中で、利用者が大切にしていきたい思いや、とりまく背景について詳細に把握し、職員間で共有することができている。入居前の近所付き合いや家族等との関係が良好に継続できるよう支援している。事業所での生活が始まって馴染みのホームヘルパーの活用ができるようプランにつなげたりと、利用者の思いが実現できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士で、リビングのソファに座られ、会話をされたり、職員と一緒に散歩されたりして関わり合いをもたれている。また、ご利用者様が1人では、声かけをしたり、他の方とのふれ合いができるよう、支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人の状態に応じ、特養への移行を支援したり、入院の場合は、見舞いに行くなど、関係を断ち切らないように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から、ご本人やご家族の意向を伺っている。ご本人の意向が把握できない時や、ご家族から特に要望がない場合は、職員間でどうするのが最も良いか検討し対応している。 (外部評価) 認知症状の進行により、これまで好きだったことなどに興味を失っていく利用者の一日一日を大切に思っている。声かけや会話を継続させ、会話の中から要望や思いを引き出し、家族等や職員間で思いを共有し、実現できるよう支援している。意志表示が困難になっても、これまでの暮らしぶりの記録や家族等関係者からの情報をもとに本人本位に検討し、外出や音楽療法の機会を活用して気分転換を図りながら、豊かな生活支援へつながるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談などにより、これまで生きてこられた過程や、職業などの生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24Hシートの記録や、申し送りなどで、本人の1日の過ごし方や心身状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族から、今まで困っていた事や要望などを伺い、ホーム職員だけでなく、今まで関わりをもたれていた方の意見なども聞きながら、アイデアを提供してもらい現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 生活の中で把握した利用者の意向や家族等の思いをプランに取り入れて実践につなげている。サービス担当者会議で担当者や介護支援専門員、管理者、担当職員で利用者がより良く暮らすための課題について検討し、意見を出し合っって介護計画を作成している。介護計画は3か月毎に見直され、担当者が毎月モニタリングを実施している。記録物に関し、明確な記載に努め、利用者の日々の変化が誰が見てもわかるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、心身の状態、行動を24Hシートに記録し、情報の共有、ケアプランへの反映に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) グループホームだけではなく、特養とも協力し、入所している家族様と面会してもらうなど柔軟な対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域にある小学校へ運動会の応援に行ったり、慰問に来てもらったり、消防署との避難訓練への参加などを通じ、地域との交流を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人、ご家族に入所時に医療を受ける際の希望を聞き、 要望に沿って対応をしている。 (外部評価) 利用者のほとんどが協力医療機関をかかりつけ医としてお り、月2回の往診のほか、状況に応じて適切な医療が受けら れるよう支援している。希望する馴染みの医療機関への受診 は、家族の協力を得たり職員の同行で行っており、受診時の 情報提供が円滑にできている。法人内看護師とは24時間医 療体制が敷かれ、緊急時や日常の相談等が気軽に行われてお り安心感が持てる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームには特養と兼務する看護師いる。健康面での困った 事の相談や、医療とのつながりの間に入ってもらい適切な医 療、看護が受けられるようにして支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院されたケースでは、入院時の医師からの説明を看護師 と管理者が家族とともに聞き、入院後、家族から状況を伺い ながら様子を見て、退院、再入所の準備を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルの対象の方には、早い段階から、ターミナルケ アの方針に沿って、家族との週1回のカンファレンスや、 ターミナルケアプランの作成・実施、ターミナルケア記録に よる個別の状況把握、医療機関との連携に取り組み、万一の 場合の対応も決めている。 (外部評価) 看取りに関する指針を定め、看取り経験もある。法人内部研 修にて勉強の機会を設け、職員のスキルを高めている。点滴 等医療面での処置が必要な状況を含めた不安軽減として、緊 急時連絡体制、法人内看護師との24時間医療体制、経験度 に応じた夜勤体制等対応を行っている。また、利用者の状況 に応じて説明の機会を設け方針を共有するなど、チームで支 援に取り組むことができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故、感染症、急変時の対応マニュアルがあり、緊急時には定期訓練を行い、全員があわてず適切な対応が出来るように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防署の指導による避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるように努めている。防災訓練への参加や運営推進会議等の場を通じ、地域の方との連携を図っている。 (外部評価) 年2回、消防署立ち合いにて訓練を実施し、専門的な視点からアドバイスを受けている。事業所の所在する高齢者福祉施設は福祉避難所となっており、緊急時の備蓄品は施設全体プラス地域分を合わせて設定している。防火扉や避難スロープ等、施設全体の設備面は安心感がある。事業所は海岸に近いが、地震時の津波対応だけでなく各災害を想定した安全な避難方法を検討することができている。	訓練の方法や避難経路での改善案など、消防署から受けたアドバイスを確実に役立てて欲しい。運営推進会議や地域防災訓練等、地域住民の防災意識も高い地域であるので、訓練への参加協力を得たい。高まる全国での災害不安に対し、緊急時に福祉避難所としてスムーズに機能できるよう地域との具体的な協力体制づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) グループホームの理念に「尊厳を大切にすること」が掲げられている。言葉遣いについても、不適切ケチェックや自己評価チェックシートで定期的に自らを振り返り、誇りやプライバシーを損ねないように取り組んでいる。 (外部評価) 利用者の尊厳を大切にすることは理念にも掲げられ、事業所全体で共有できている。定期的に不適切ケアチェックシートを用いた自己評価を実施することで、日々のケアに活かされる仕組みがある。また、排泄や入浴時の特に羞恥心に配慮が必要となる場面では、特に声かけの面で誇りやプライバシーを損ねないことを意識した取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 朝食時の飲み物を希望されるものや、10時と15時のおやつ時間には、お好きなものをお出ししている。希望を聞く時にも「何が良いですか」と、本人の希望を出来るだけ聞くように言葉かけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各ユニットの目標に、「自分らしく」や「その人らしさ」を掲げている。入浴なども、本人が希望されない時には、別の日に変更したり、時間もご自分のペースで入浴して頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分の化粧品をお持ちのかたは、居室にて自分でお化粧をして頂いている。衣類も、本人の意思を尊重しながら選んでいただき、気候や季節にあったものを着て頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は副食とおかゆは厨房で調理しているが、ごはんは各ユニットで炊き、カレー作りやおやつ作りなどは利用者様と職員と一緒に準備や盛り付け、食事、片付けを行っての。 (外部評価) 高齢者福祉施設全体の献立は法人管理栄養士が作成し、厨房で調理されているが、主食の準備や配膳等は各ユニットで行っている。好みのメニュー等について管理栄養士が調査しており、栄養管理とともに食が楽しみにつながるよう努めている。懐かしいおはぎ等おやつ作りを定期的に行うなど、懐かしい和みのひと時を楽しんでおり、利用者それぞれの希望に沿った時間の過ごし方ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量を毎日どれくらい摂取しているか、一人ひとり記録し、確認をしている。食事のペースもそれぞれの方にあわせ、せかしたりすることのないようゆったりとした雰囲気の中で食べて頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、きちんと歯磨きやうがい、入れ歯の洗浄を行い、自分で出来る方には声かけをし、自主的にして頂くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 本人の訴えや、様子観察を通じ、適切にトイレ誘導を行い、失禁のないように努めている。立位や座位保持が出来る方には、出来るだけトイレでの排泄を促し安易にオムツを使用しないようにし、使う時にも夜だけにするなど自立に向けた支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の様子をよく観察したり、排泄パターンを把握するほか、声かけによる誘導等工夫しトイレでの排泄に努めている。利用者の残存能力や機能回復等を考慮し、過度の介助による症状の進行を防止している。また、何より日々の生活の中で食事や運動等、基本的な面から健康管理していくことを大切にしており、自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘気味の方には、廊下を歩いたり、散歩をするなどの運動や、適切な水分補給を行いできるだけ自然な排便を促し、どうしても出ない時には、下剤を服薬して頂いている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 週2回入浴日を決めて、入浴をして頂いている。本人の体調やその日の気持ちで入浴できない時には、別の人に入って頂くなど、臨機応変に対応し、ゆっくりとご自分のペースで入浴していただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 週2回の入浴が基本となっており、各ユニットの浴室には可動式の個別浴槽や特殊浴槽があり、利用者の状態に合わせて利用することができる。また、入浴が苦手な利用者にも、声かけの工夫や日時を変更するなど柔軟な対応をしており、無理強いすることなく利用者が入浴を楽しめており、清潔保持のための支援に努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ご本人の様子を見ながら、休息をとって頂いたり、体調に合わせた生活のリズムを考え対応している。起しっぱなし、寝かせっぱなしにならず、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報提供表などを置き、確認できるようにしている。重要な薬に関しては副作用について確認し、場合によっては、看護師に確認して頂き、状態変化の観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の性格や出来ることを把握し、人との関わりや、手伝いをして頂き、自分の役割を持ってもらい、気分転換や達成感のある生活を送っていただくよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外部のサービス（ヘルパー）を利用したり、ご家族の支援を得て外出していただいている。ご家族の理解を得て、近くの、公園や神社スーパーへの買い物、ドライブなど少人数でも、出かけられるように支援している。 (外部評価) 定期的に季節の景色や行事が楽しめるよう工夫しており、事業所周辺へ出かけることは日常で、その日の希望に沿って戸外へ出かけることができている。また、事業所内にいながら気分転換ができるよう、職員が手入れしている中庭やサンルーム、リハビリ機器が揃う多目的ホールの活用ができるほか、利用者の希望を把握し、家族等の協力を得て外出できるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者様や家族様の了解の下、ご自身で管理できる方には、お金を所持して頂いている。外出時は各自お金を持ち買い物をして頂き、施設内の自販機などでジュースを買ったりしてされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族と話がしたいと言われる時には、出来るだけご家族に連絡し話をして頂いている。また、手紙のやりとりも自由にして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日清掃を行い、居心地のよい共同空間作りができるように努めている。照明の明るさを変えたり、窓を開けるなどして、季節を感じて頂く工夫をしている。 (外部評価) 利用者にとって落ち着ける空間であるよう和調の雰囲気を取り入れた設えで、共用部は広くとってありゆとりがある。また、空調や調光に配慮し、不快な臭気もなく心地良い空間づくりとなっている。キッチンからリビングの死角となる場所にはミラーを活用し、共用部分に不要な物を置かず安全面に配慮しているほか、職員の毎日2回の徹底した清掃により清潔な共用空間を維持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 海に見える部屋や、サンルームなどでゆったりと過ごして頂いたり、ソファで他の利用者様と話をしながら私語して頂き、ふれあいの場を作り、自由に過ごして頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には写真を飾ったり、アルバムを置くなどして本人が居心地よく過ごせるようにしている。今まで使用されていた家具、ソファ、椅子を置くなどして、本人が過ごしやすい環境をつくり過ごして頂いている。 (外部評価) 個別の空間は広々としており、靴箱、洗面台、仕切りカーテン、クローゼット、エアコンや電動ベッドなどが備え付けられている。また、これまでの習慣を維持できるよう使い慣れたものの持ち込みを声かけしており、豊調の敷物や家具等を自由に持ちこんで自室に近い状況を再現するなど、居心地よい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、浴室、トイレ、洗面台には手すりをつけ、残存機能を生かした生活が送れるよう工夫を行っている。	